

# 「スポーツあそび」で被災地支援 in 珠洲市立若山小学校

団体名 ● 地域スポーツマネジメントゼミナール（西村ゼミナール）

代表者名 ● 植野莉子（人間科学部スポーツ学科・3年）、西村貴之（人間科学部スポーツ学科・教授）

## はじめに（背景・目的・目標）

本取組は、人間科学部スポーツ学科地域スポーツマネジメントゼミナール（指導教員：西村貴之）に所属する学生が、総合型地域スポーツクラブ「NPO 法人クラブパレット」と連携して、珠洲市立若山小学校で実施された「スポーツあそび」に参加し、被災地支援を行なったものである。震災後、被災地では子どもたちが体を動かす機会が減少しており、運動不足や心身への影響が懸念されている。そこで本活動では、運動やスポーツを通じて子どもたちに元気や笑顔を届けることを目的とし、運動の楽しさや大切さを感じてもらおうこと、そして、大学生との交流を通じて新たな刺激を与えることを目標とした。

## 活動内容

日程：2025年10月16日（木） 9:45～13:30

場所：珠洲市立若山小学校（石川県珠洲市）

参加：珠洲市立若山小学校1～6年生 児童15名

西村ゼミナール所属学生 6名

NPO 法人クラブパレット職員 2名

内容：この活動は、NPO 法人クラブパレットが主催した被災地支援活動「スポーツあそび」の一環として実施され、「スポーツあそび」及び「かけっこ教室」を行った。活動中は、児童一人ひとりの体力や発達段階に配慮しながら、運動への苦手意識を軽減し、成功体験を得られるような声かけや関わりを学生が行った。また、児童と共に体を動かすことで、運動・スポーツの楽しさや大切さを伝えることを意識した。活動終了後には給食を一緒に食べながらコミュニケーションを図り、児童との親睦を深めた。

## 成果、結果の考察

活動を通して、児童からは「思い切り体を動かして楽しかった」、「早く走れるようになった気がする」などの前向きな感想が多く聞かれた。はじめは消極的な発言も見られたが、成功体験を重ねることで自

信や意欲が高まり、運動を楽しむ姿勢へと変化していった。また、小学校の先生からは、大学生との交流が子どもたちにとって良い刺激になったとの評価を得ることができた。学生にとっても、被災地の現状を直接知り、スポーツが地域や人を元気にする力を持つことを実感できる貴重な学びの機会となった。



「スポーツあそび」の様子

## 今後の課題、展望

今後の課題として、被災地では依然として運動・スポーツを行える場所や機会が不十分となっている点が挙げられる。単発的な支援にとどまらず、継続的に運動の機会を提供できる仕組みづくりが必要である。今後は、子どもから高齢者まで幅広い世代が参加できる活動なども検討し、地域とのつながりを重視した支援活動を継続していくことが望まれる。



「かけっこ教室」の様子